

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年7月1日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870200961		
法人名	有限会社 フルハウスカンパニー		
事業所名	グループホーム ひまわり	ユニット名	ひまわり
所在地	〒316-0001 茨城県日立市諏訪町1-20-18		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成23年6月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成23年1月21日	評価確定日	平成23年6月14日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>利用者さま一人ひとりが自立した日常生活ができるよう支援している。 健康面においても協力医による2回/月の往診や看護師との連携で安心して暮らせるよう医療体制が確立している。 また、地域の方々と楽しみ事を共有し、お祭りや文化祭には職員と共に参加する等、家庭的な雰囲気のもと生活している。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は利用者が24時間を通して安全・安心の環境の中で、家庭的な暮らしができるよう支援している。 代表者は、職員が利用者を自分の親の様に思いながらケアを行えるよう、また自分も老後を過ごしたいと思えるような事業所づくりに取り組んでいる。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペース（フロアー）に掲示している。職員全員で共有・実践している。 また、利用者さまやそのご家族にも目が届くようになっている。	「利用者がその有する能力に応じて、可能な限り自立した日常生活を営むことが出来るよう支援していく」という理念をフロアに掲示するとともに、管理者と職員は朝礼時などに唱和し、共有を図り実践に努めているが、理念に地域密着型サービスの意義を盛り込むまでには至っていない。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域密着型サービスの意義を理念に付け加えることを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1回/月、定期的に地域ボランティアの皆様との交流を計画、積極的に取り組んでいる。地域主催の「夏祭り」「秋祭り」等も恒例となり、地域社会とのつながりを大切にしている。	事業所は自治会に加入しており、利用者は地域主催の夏祭りや秋祭り、交流センターでの文化祭に参加している。 オカリナや日本舞踊などの地域のボランティアを定期的に受け入れ、利用者が地域社会とつながりながら暮らし続けられるよう支援をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、定期的に交流している地域ボランティアの皆様の多数が利用者様と年齢が重なり、ホームに来ていただくことで、利用者さまの日常生活状況や認知症の方への接し方や支援の方法により理解を深める機会となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員への報告を兼ねたミーティングを行い、サービス向上に活かしている。 グループホームの現状や具体的な取り組み、改善課題内容を伝え、皆様より貴重な意見をいただきながら、ホームへの理解・支援を得る良い機会となっている。	運営推進会議は利用者や家族等、市職員などを委員とし2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の状況や活動報告、外部評価結果で明らかになった課題やターミナルケアの取り組みなどについて積極的な話し合いを行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	1回/2ヶ月、運営推進会議を定期的に開催。グループホーム内の状況を説明、課題等に対する指導や協力を得ている。又、毎月市の相談員がホームに見え、利用者さま全員の現状を確認できる機会となっている。	管理者は市担当者に利用者の暮らしぶりやニーズを伝えるなど情報交換を行うとともに、連絡を密にしている。 運営推進会議で市担当者に運営に関する相談をしたりアドバイスを得るなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束をしないケア」の具体的な内容を年間研修計画に取り組み実践している。また、契約時にはやむを得ない時のみの説明をして、捺印をいただいている。が、現在まで行為に及んだことはなく、安全を確保、自由な日常生活を支援している。	職員は身体拘束排除に関する研修を受講するとともに、職員会議で報告したり、事業所のマニュアルを用いて内部研修を行い、身体拘束の内容とその弊害を認識している。 日中は玄関を施錠せず、職員の見守りにより利用者の安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、研修計画に取り組み、虐待防止に努めている。 さらに、利用者さまの状況確認や職員の行動・言動に細心の注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、学ぶ機会を持ち、話し合っている。 個々の必要性と活用には至っていない。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は十分に行い、理解をいただいている。 また、解約や改定等の際も了承いただけるよう配慮、対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営に際し、利用者さまやご家族が意見・要望を伝えられる機会をつくり、率直な意見を活かすよう努めている。 アンケートも依頼、言いにくい意見や要望を出していただけるようにしている。	重要事項説明書に事業所や第三者機関の苦情相談受付窓口を明記し、契約時に利用者や家族等に説明している。 玄関に意見箱を設置しているが投函がないため、職員は家族等の来訪時に意見や要望を聴くよう努めている。 毎月介護相談員の来訪があり、利用者との話し合いの場が設けられている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、運営に関する意見、提案を聞く機会を設け、意見要望が反映されている。	代表者や管理者はミーティングや面談により、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。 投薬やレクリエーション、入浴方法とその内容などの意見や提案が運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は毎月1回必ず職員全員と面談を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新規採用職員は、内部研修を3ヶ月間行っている。外部研修の案内は回覧、自主的な参加を促している。1年を通し、看護・介護のミーティングを行い、知識・技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市主催の地域密着型サービス事業研修会や、ケアマネージャー協会主催の研修会に参加し、意見交換を行うと共に、それらを通し、サービスの質の向上に活かしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学・相談の時からサービス利用に至るまで、ご家族様、利用者さまと十分に面接、ホーム内を案内、サービス利用するご本人には不安がないように説明、安心してご利用いただけるよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時に、家族が困っていることや利用に際しての要望をしっかりと聞く。ホームを利用するご家族が安心して過ごせるよう、相手の立場になり対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用を開始するにあたり、その時点で必要なサービスの調整をしている。また安心してご利用出来るよう本人、ご家族にこまめに声をかけ、相談・連絡を密にしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が事前にミーティング（カンファレンス）を行い、ご利用に際しての情報を共有している。日々の生活の中で、生活の知恵、季節の行事、昔ながらのこと等、多くのことを教えていただき、共に学び、支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者さまの気持ちを家族に伝え、協力していただける家族の絆を大切に、中立の立場で支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	常時、面会に見える方との面会場所を提供している。さらに、家族・職員共に外出するなど「会いたい人」「行きたい所」を大切に支援している。	昔から付き合いのある馴染みの人や親戚の来訪があった際には、居室のほかに面会場所を提供し利用者と面会者が気軽に会話ができるよう配慮している。 家族等の協力を得て利用者がかつて出かけた市民会館、交流センターの催し物や外食など、馴染みの場所に継続して行けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「できる事」「できない事」を認め合って、言葉や行動を通して利用者同士のかかわり、支え合える支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さまの強い希望でGHより自宅に戻られた方がいる。現在も引き続きサービス利用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの生活暦を把握している。日々の生活の中で、本人の残存能力や暮らしたい希望など思いや医師の把握に努めている。	職員は利用者の生活暦を把握するとともに、残存能力を活かすため一人ひとりに合わせた「生活リハビリ表」を作成し、利用者の意向にそった支援に努めている。 思いや意向の把握が困難な場合は、家族等の意見等を反映して利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時の困った状態ではなく、職員の知らない生活暦を知り、共有することで、対応・支援の参考にするためにも入居時、面会時にできるだけ情報を聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は日常生活において気づいた点を個別に記録すると共に、申し送りを行い、本人の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者さまや家族からも意見を聞き、日頃接している職員と24時間を通してのカンファレンスを行い、それを基に介護計画書を作成している。	介護計画は利用者や家族等の意向を聴くとともに、看護師の情報や職員カンファレンスにより作成し、6ヶ月毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日常生活において気づいた点を個別に記録すると共に、申し送りを行い、本人の現状把握に努め、それらの情報を共有しながらケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さまの要望により、地域行事への参加、買物等の支援をしている。また、24時間医療連携体制を生かして急な往診など、臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常時友人が尋ねてきたり、地域行事への参加、映画鑑賞や外食への誘い等、ホームの中だけではなく楽しみの持てる支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による2回/月の往診を行っている。職員は常時、看護師と連携をとっており、適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診を支援している。 月2回協力医療機関の医師による訪問診療があるほか、週2回看護師が来訪し、健康状態の把握や見守りを行っており、利用者や家族等の安心につなげている。 専門医への受診は家族等または職員が付き添い、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、本人の体調変化や身体観察を行い、個別記録に記入すると共に、担当看護師と連携をとり、適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>常時、主治医との連携は取れている。さらに利用者さまに適切な治療ができる対応を支援すると共に、病院関係者との関係づくりにも</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、本人や家族としっかり話し合いを行っている。また、GHでできる事、できないことの説明をして、ご希望に沿ったケアができるようチームケアで支援に取り組んでいる。</p>	<p>重度化した場合や終末期に向けた事業所の対応マニュアルを作成するとともに、利用者や家族等に事業所でできること、できないことを説明し「ターミナルケア承諾書」を作成している。</p> <p>事業所では看取りの経験があり現在も看取り介護を実施しており、職員はマニュアルで統一したケアができるよう取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員は毎月介護・看護の勉強会を計画、実施している。新しい参考文献を基にマニュアルを作成、また外部研修時の報告を共有、知識や技術の向上に役立て、実践につなげている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力を得て、昼夜を問わず避難できる方法を職員全体が参加、実施している。また、救急蘇生法等も計画している。</p>	<p>消防署の協力を得て年2回、避難訓練や通報訓練、消火訓練を実施している。</p> <p>前回の外部評価結果で課題となった夜間を想定した避難訓練は実施しているが、近隣住民との協力体制を築くまでには至っていない。</p> <p>災害時に備え、食糧や飲料水を備蓄している。</p>	<p>夜間を想定した避難訓練を継続して実施し、全職員が避難方法を身につけられるよう取り組むとともに、災害時における近隣住民との協力体制を運営推進会議などで話し合い、構築できるように取り組むことを期待する。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に、利用者さまを目上の方として誇りやプライバシーを損ねないような対応を心がけている。介護・支援する中で言葉かけにも十分配慮している。	職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し日々の係わりの中で言葉かけに留意するとともに、トイレ誘導や入浴介助時にはプライバシーに配慮した声かけや対応に努めている。 個人の記録等は事務室の決められた書架に保管し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、利用者さまからの話を傾聴できるよう心がけている。その中で日常生活の状況を把握、本人の希望や自己決定ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは決まっている。が、利用者さま一人ひとりが散歩や買物、趣味活動をしたり、好きなことをして過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常、ほとんどの利用者さまが、好みの身だしなみをしている。外出の際は、季節にあった洋服や帽子、マフラー等一緒に選び、その人らしいおしゃれをする支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、時には利用者さまに好みを聞いて作ることもある。野菜の収穫から下ごしらえ等一緒に行っている。職員は利用者さまと共に食卓を囲み食事をしている。食後の片付けも毎日一緒に行っている。	決められた献立に自家菜園で収穫した旬の野菜を加え、食事が楽しめるよう工夫している。 苦手なメニューや薬との飲み合わせが悪い場合は、代替食を提供している。 職員は利用者と共に食卓を囲み会話をしながら食事をしている。 利用者は能力を活かし下ごしらえや後片付けを職員と一緒にしている。 季節に合わせた行事食や外食なども楽しみなものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、一日を通して確保できるようにしている。また、利用者さまの身体状況や週間を把握、一人ひとりの栄養バランスを考え支援している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握すると共にトイレにての週間を活かし、声掛・誘導・自立に向けて支援をしている。	職員は排泄チェック表を活用し利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するとともに、誘導のタイミングを見計って声かけをし、トイレで排泄ができるよう支援している。 夜間はポータブルトイレを使用し、排泄の自立に向けた支援をしている。 毎朝清拭を行うなど清潔面での配慮にも努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常において、薬に頼らず、冷たい牛乳や食物繊維の多い食材を工夫して予防している。また、外気浴や軽体操等、腸の働きを促進するよう取り組み支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一定の決まりがある。しかし、外出の際や利用者さまの希望に応じた支援はその都度対応できるようにしている。	入浴は週3回午後に実施するほか、利用者の体調に合わせて清拭や下着交換、足浴、夏季にはシャワー浴ができるよう支援している。 柚子湯や菖蒲湯を取り入れたり、入浴後の水分補給は利用者の好みの飲み物を用意するなど、楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休憩したりしている。また、寝具を干す等、環境を整え、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用量・副作用については資料や看護師からの指導をもとに理解を深めている。その上で一人ひとりの症状の変化や確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や清掃、草花の手入れなどその人の力を活かし、活動していただいている。また、時には好みのお菓子等でお茶会をしたり、気の合ったメンバーで談話を楽しめるよう支援をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って買物や散歩は自由に出かけている。知人・友人・家族の協力もあり、日常的に外出支援をしている。	職員は利用者の体調に配慮しながら近隣の散歩や買い物、外気浴等日常的な外出支援をしている。 歩いて行ける場所への花見や地域行事への外出を支援しているが、ドライブなど普段行けないような場所への外出支援は殆どしていない。	併設する通所介護事業所の送迎車を利用したり、家族等の協力を得るほか、ボランティアや社会資源を活用して普段行けない場所へも計画的に外出ができるよう支援することを期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者さまが自由に使える支援をしている。しかし、整理の難しい方に関しては職員が管理を行いながら支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人・友人・大切な方への連絡は自由に行えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間における環境を整え、利用者さまに不快のないよう配慮している。また、季節の切花を飾るなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	廊下や居間兼食堂などの共用空間は、天窓から採光できる設計となっており、エアコンで温度調節をしている。 中央部に広い畳敷きのスペースを設置し、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。 壁面には行事の写真や季節を表現した習字、利用者の作品を掲示し、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話の合う利用者さま同士の座席の工夫を行っている。また、共有空間以外にも集まり、過ごせる場所の提供も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家具やテレビ・イス・テーブル等、できるだけ自宅から持参していただいている。写真や手作りの品など本人が自宅にいた時と同じように過ごせるよう支援している。	利用者は居室に寝具やこたつ、テーブル、椅子、テレビなど使い慣れた物品を持ち込んだり、家族等の写真や手作りの品、カレンダーなどを飾り、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さまの目線にあった「印」の工夫をしている。また、移動時における安全な環境を考え、自立した生活が送れるよう支援している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成23年6月22日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	利用者が地域とのつながりながら暮らし続けられるよう、地域密着型サービスの意義を理念につけ加える事を期待する。	利用者が地域とのつながりながら暮らし続けられるよう、地域密着型サービスの意義を理念とする。	管理者と職員全員で地域密着サービス意義を理念に盛り込み共有実践する。	実践している
2	13	夜間を想定した避難訓練を実施、全職員が避難方法を身につける。また、近隣住民との協力体制を構築出来る様期待する。	夜間を想定した避難訓練を実施、全職員が避難方法を身につける。また、近隣住民との協力体制を構築出来る様努力する。	夜勤職員を中心として避難訓練を計画実践しました。が地域住民の幅が広げられるよう声をかけ協力を得たい。	今年度内とする。
3	18	社会資源を利用して普段行けない場所等へ計画的に支援する事を期待する。	社会資源を利用して普段行けない場所等へ計画的に支援する事とする。併設する事業所の送迎車・ボランティアの協力依頼も計画支援する。	近隣への散歩・買物等は常時支援している。社会福祉協議会より、市内ボランティア活動組織一覧を頂き協力を依頼したい。	一部実践している。
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。